

伝統に生きる

—あらかわの工芸技術—



てうえ 手植 ブラシ

た ぐち きん いち
田 口 謹 一

(平成9年度作品)

16^ミ映画・ビデオ
カラー・22分

プロフィール

住所、荒川区西日暮里2-22-5

大正11年(1922)、東京都生れ。

平成8年度、荒川区指定無形文化財保持者に認定される。

田口さんの父・壮吉さんは横浜でワイヤブラシづくりを教わり、上野下谷にて店を開いた。小学生の頃から、ブラシづくりを手伝ううちに自然と技術を修得した。終戦後、焼け跡から焼けてしまった機械などのサビをとるときに、ワイヤブラシを使った。そのため飛ぶように売れ、材料を調達するのが一苦勞だったという。

昭和24年に、ふさ子さんと結婚。浅草烏越に新居を構える。

ブラシづくりで穴あけが一番重要という田口さんは、つば錐の刃を使い易いように自分で作っており、この刃を使うと穴からカスがきれいに出て来るといふ。田口さんのように、穴あけから毛植えまで一人でやっている職人は少なくなっているが、田口さんに後継者はいない。

現在田口さんは、手づくりにこだわりをもちながら、手植ブラシの他、ワイヤブラシ、各種刷毛などを作っている。

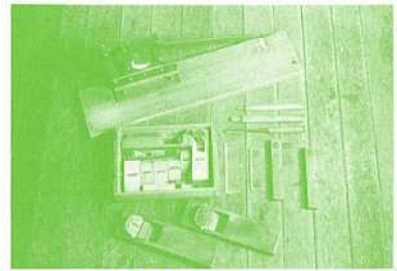
企 画 東京都荒川区教育委員会・制作 株式会社 文化工房
著 作

用具・工具

毛（馬、豚、猪など）、木地（^{ほお}朴、^{かつら}桂、^{ぶな}樺、^{かんな}）、鉋、まんぐわ、金櫛、穴あけ機、押切り器、刈込み機、墨付けの型、ステンレス線、廻し鉋など。

工程 —— ボディブラシの場合 ——

- (1) 【毛ごしらえ】
 - ・馬の尻尾の毛を必要な長さに切る。
- (2) 【毛ぞろえ】
 - ・根元と先端で太さの異なる毛を均一にするため、まんべんなく混ざるように振り混ぜる。
 - ・まんぐわと金櫛を使って、まとめた毛の束から短い毛を梳いて取り除いていく。
- (3) 【墨付け】
 - ・穴のあいた薄い金属板の型を木地屋から仕入れた木地にあてがい、毛を植え付ける位置を墨で印を付けていく。
- (4) 【穴あけ】
 - ・穴あけ機の台の角度を決められた位置へセットする。その台の上に木地をのせ、一番外側の列からあけていく。
 - ・台の角度を変え、外から二列目をあける。
 - ・順次、台の角度を変えていき、真ん中まであけていく。
- (5) 【植付け】
 - ・0.25～0.29ミリのステンレス線を、二つ折りにして穴に通し、ひとちょぼの量の毛をはさみ、植付けていく。
(木地の真ん中の列から始める)
 - ※「ひとちょぼ」…一つの穴に植付ける毛の量をいう。
- (6) 【蓋打ち】
 - ・木地の背の部分に蓋を打ち付けていく。
- (7) 【刈込み】
 - ・植付けた毛は長さが不揃いで凹凸があるため、刈込み機で形を整えていく。
- (8) 【仕上げ】
 - ・木地部分を廻し鉋で削り、仕上げる。



用具・工具



穴あけ



完成した各種手植ブラシ

この記録〈ビデオテープ〉は、荒川区内の各図書館で貸し出しています。なお〈16^{mm}映画〉は、荒川区立荒川図書館で貸し出しています。どちらも貸し出し期間は、1回5日間です。お気軽にご利用ください。但し、〈16^{mm}映画〉の貸し出しには団体登録と16^{mm}映写機講習修了者の操作が義務づけられています。

〈問い合わせ先〉

荒川区立荒川ふるさと文化館・・・3807-9234

荒川図書館・・・3891-4349

町屋図書館・・・3892-9821

尾久図書館・・・3800-5821

日暮里図書館・・・3803-1645

南千住図書館・・・3807-9221